

低圧非常用発電機 法定点検のご案内

(消防法第17条3の3消防用設備等の点検報告制度)



当社は行政、宣伝、技術の3分野に積極的に働きかけて、全体がスムーズに連携出来るように組織化してきました。負荷運転試験企業と宣伝チームとの提携、行政との情報・意見交換を通して、負荷運転試験を啓蒙普及してきました。

負荷運転試験（現場調査・見積り・負荷試験業務）に関するることはお気軽にお問い合わせください。

株式会社 ToDo

〒144-0051 東京都大田区西蒲田1-17-16-103
TEL 03-3754-2764 FAX 03-6410-6151
E-mail / info@todo-red.com

※防火設備の設置基準とその点検報告が義務付けられています。

より高い防災意識を目指して



株式会社 ToDo

1 低圧 非常用 発電機

の法定点検とは?

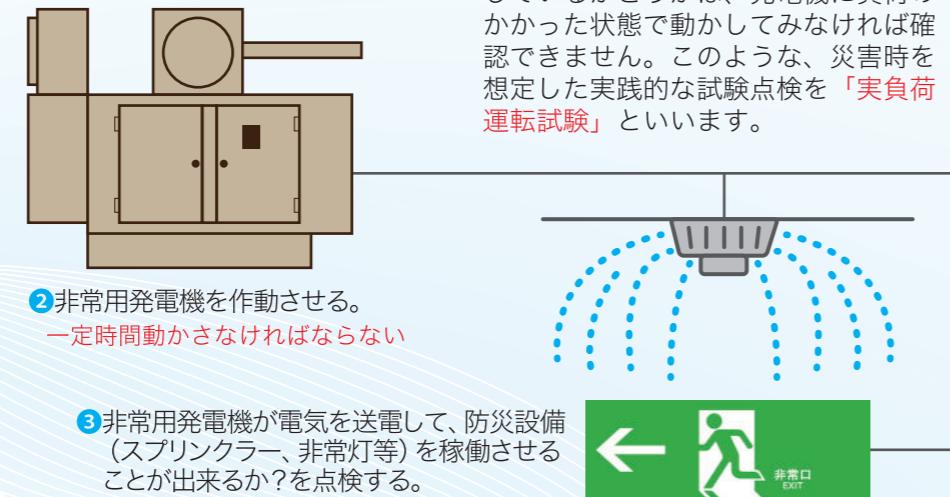


消防法が制定されたのは昭和23年のことです。その後も、私たちは数々の災害に見舞われ、多くの犠牲者を出してきました。その痛ましい経験を教訓に、さらなる防災強化のため、法律の改正が重ねられてきました。その結果、ある種の建物に対しては消防法による防火設備の設置基準が定められ、その点検報告が義務付けられました。

当社が皆様に呼びかけているのは、消防法に基づく定期点検を通して、いざという時に非常用発電機が十分に稼働するという信頼性と安全性を、100%担保して頂きたいということです。このような呼びかけを受けるまでもなく、オーナー様、管理者様の多くは非常用発電機の定期点検に関心を払っておいででしょう。ただ、点検もそのやり方によっては、十分な信頼性を担保できない可能性があるのです。実際のところ、大多数の事例において、非常用発電機の電源を入れて発電機を作動させてみると——このような動作確認だけで終わっているというのが現状なのです。

3 実負荷運転試験

とは、どんな試験?



理由その 1 全館停電が必要



実負荷運転試験には2つの方法があります。1つは、施設を全館停電させ、必要な設備を非常用発電機だけで動かして見るというものです。しかし、24時間利用者のいる病院やホテル、多くのテナントが入居している商業ビルの場合、全館停電のタイミングを確保するのは、ほぼ不可能と言えます。また、仮に全館停電で実負荷運転試験を行った場合、非常用発電機に一気に負荷がかかるため、発電機が故障してしまうリスクが生じます。こうした非常に高いハードルがあるために、これまでの定期点検は無負荷運転による動作確認で終わっているのがむしろ普通だったのです。

理由その 2 今まで試験装置が大きくスペース確保が大変

実負荷運転試験のもう1つの方法は、非発電機に外部から負荷をかける「模擬負荷試験装置」を接続し、全館停電せずに点検を行うというもの。ただ、従来の試験装置はサイズが大きく、トラックの荷台から降ろすのが困難でした。そのため「現場まで乗り付けてそのまま試験を行い、撤収する」というスタイルで行われており、駐車スペースを確保できない都市部などでは、検査が困難でした。また、敢えて試験を行おうとすれば、足場やケーブルの設置など、大掛かりな工事にならざるを得なかったのです。以上のような理由から、負荷をかけた状態での運転試験は行われていませんでした。ところが、これ以上はそもそも言つてられない状況が生まれているのです。

行われていないその理由

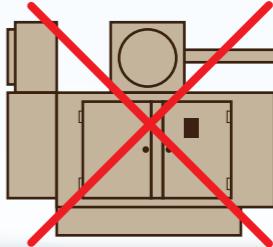
4 実負荷運転試験が



今までの模擬負荷試験装置



非常用発電機が動かない!



ポン

warning

5 非常に

なにに

2016年の熊本地震や2017年の吹田市の大規模停電において、整備不良が原因で非常用発電機が動かない事例がいくつもありました。



非常時なのに動かない
なんてシャレにならない。



新しい「模擬負荷試験装置」です！

従来より
小型化を
実現！



全館停電
が不要！



非常用発電機内部

試験装置を非常用発電機に接続して発電機を始動させます。試験装置が発電機に負荷をかけることで、非常用発電機が正常に稼働するか、実際の災害時に必要な防災設備を動かす上で、どれくらいの信頼性があるのかを測定することができるようになりました。実負荷運転試験と同等の、模擬的な負荷運転試験を行うことができるのです。

また、この模擬負荷試験装置は測定の際に、ゆっくりと発電機に負荷をかけていくため、発電機自体の故障も防ぐことができます。また、実負荷運転試験で必要とされる「全館停電」のハードルを回避しつつ、非常用発電機の信頼性と安全性をほぼ100%担保することができるようになりました。



この模擬負荷試験装置は、検査対象となる非常用発電機の様々な仕様に対応できるよう作られています。そして最大の特徴は、大人が持ち運びできる程度に小型化されたことです。そのため非常用発電機のすぐそばまで搬入することが可能で、長大なケーブルや足場を設置する必要がなくなりました。また、すぐに測定結果を把握でき、作業時間も短縮されるため、試験費用も低く抑えられます。



別記様式第2-4 非常電源(自家発電設備)点検票(取扱い)(政令第3)			
点検機器名: 模擬負荷試験装置			
名 称:		防火管 備 考:	立会者:
所 在:		燃 烧 機 構 造:	立会者:
点検種別:			
点 檢 者:		施 工 者:	立 会 人:
点 檢 者:		製造者名:	立 会 人:
設 置 施:		発 送 機:	立 会 人:
点 檢 项 目:			
規制・審査等の内訳:			
本 頁 内 附			
備 考:			

始動 保 護 装 置	運 転 切 替	運 転 切 替	運 転 切 替	負荷運転	
				MΩ	℃

当社は「点検票」の別記様式第2-4、その3の「負荷運転」項目の点検を担当いたします。また、その負荷運転試験で得られたデータをまとめて、報告書としてオーナー様に提出いたします。その報告書をお取引メンテナンス会社に伝達していただき、「点検票」の「負荷運転」の項目に必要事項をご記入いただくことで、法定点検を万全の状態で完了したことが消防当局により確認されることになります。